

# 千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町 1-1  
公益社団法人千葉県園芸協会  
連絡先 043(223)3005  
発行日 毎月 1 日  
令和元年 8 月号

流通情報



## 卸売市場における 千葉県産青果物の販売促進活動

流通販売課 首都圏マーケティングセンター  
副主査 入倉 敏広

首都圏マーケティングセンターでは、卸売市場における販売促進活動に関係機関と連携して取り組んでいます。大田市場における販売促進イベントを中心とした取組を御紹介します。

### 1 卸売市場での販売促進イベントの概要

青果物の流通は多様化していますが、国産青果物の市場経由率は依然 8 割超と高く、卸売市場は青果物流通の中核を担っています。

卸売市場における販売促進イベントは、卸売、仲卸、青果小売等の買参人、市場に駐在している量販店のバイヤーなどを対象に実施されます。朝のせり前後の限られた時間で実施するため、試食品の提供、産地挨拶等を含め 30 分以内で終了する短時間での勝負となります。

市場内イベントの目的は、①産地の認知度向上、②新品目や品種の認知度向上、③出荷開始・産地の切替えタイミングを印象付ける、④食べ方の提案による品目の消費拡大などです。

イベントの実施主体は、JA、生産部会、県など様々ですが、近年ではキャベツやトマトのように特定の品目の主産県が連携し消費拡大イベントを実施することも増えています。



トマト主産 10 県連 (含千葉県) の合同販促消費拡大のために食べ方提案も実施

### 2 大田市場におけるイベント実施状況

国内最大の青果物取扱数量を誇る大田市場では、

青果部門だけでも年間 200 回以上の場内イベントが開催されており、このうち千葉県関係は 15 回程度実施されています。

本年度は、6 月末までに千葉県関係のイベントが 7 回実施されました。5 月・6 月はすいかの試食宣伝会が立て続けに 4 回開催され、本県産すいかを市場関係者に強く印象付けることができました。

また、県全体に関わる販売促進イベントとしては、6 月 21 日に「千葉県野菜・果実夏の陣」を開催し、旬のえだまめ、とうもろこし、葉しょうが、メロン等の夏の主要品目の PR を行いました。11 月には「千葉県秋冬野菜販売出陣式」を開催する予定です。



千葉県野菜・果実夏の陣の様子

### 3 おわりに

毎日膨大な量の青果物が行き来する卸売市場において、自分たちの商品に目を向けてもらうことは簡単ではありません。卸売場におけるイベントはほんの短い時間ですが、産地の商品にスポットライトが当てられる機会です。

今後とも、県産青果物の有利販売につながるよう、卸売市場を拠点とした販売促進活動に取り組んでまいります。

野菜ニュース



## 晩冬どりダイコンの優良品種

千葉県農林総合研究センター 水稲・畑地園芸研究所  
東総野菜研究室 研究員 千吉良 敦史

2月どり露地ダイコンの全日本野菜品種審査会において、根部の肥大や揃いが良く、障害の発生が少ない「SC3-295」（商品名「冬馬力」）など6品種が優良品種に選定されました。

### 1 はじめに

千葉県海匝地域において、厳寒期の2月どりでは、資材価格の高騰や高齢化による労力不足から、トンネル栽培が減少し、露地栽培の比率が増加する傾向にあります。しかし、露地栽培では、年により寒害を受けて収量及び上物率が大きく低下することがあります。そこで、この作型に適した低温障害の発生が少なく、収量が安定した優良品種を選定するため、第69回全日本野菜品種審査会が平成30年2月8日に開催されましたので、結果を紹介します。

### 2 栽培概要

審査会には32品種が出品され、栽培は東総野菜研究室（旭市）の黒ボク土露地ほ場で行いました。施肥は全量基肥とし、平成29年9月21日に化成肥料で窒素、リン酸、加里をそれぞれ成分量で10a当たり8kg施用しました。畝幅60cm、株間20cm（8,333株/10a）で、9月25日に播種し、2月8日に審査を行いました。栽培中には10月22～23日の台風21号による潮風害を受け、全ての品種で生育が大幅に遅れました。また、12月以降の気温は低く推移し、肥大が遅れました。

### 3 審査の結果と生育及び外観品質

審査の結果、得点の高い上位6品種が入賞しました（表）。1等特の「SC3-295」（商品名「冬馬力」）は根重が680gと重く、揃いが優れました。2等の「No.4856」は根重が705gと最も重く、揃いが優れました。「SC3-643」（商品名「春の守」）は根部先端の詰まりが良く、揃いが優れましたが、根重が

593gと入賞品種の中ではやや軽くなりました。「NR-522」は葉が旺盛で、根重が698gと重くなりましたが、内部の緑色の着色が目立ちました。3等の「KAD-226」は葉が旺盛で、根重が689gと重くなりましたが、先が細くなる株もあり形状はやや劣りました。「SC4-287」は根重が647gとやや重く、揃いは優れましたが、葉重が58gと最も軽くなりました。

審査日にダイコンの肥大が十分でなかったため、3月5日に入賞品種について2回目の生育調査を行いました。「SC3-295」、「No.4856」、「NR-522」及び「KAD-226」は、根重が1,000g以上で、M・L規格（根重900～1,399g）中心となりました。



写真 1等特のSC3-295(商品名「冬馬力」)

### 4 おわりに

以上のように、潮風害や低温による悪条件の中、生育及び外観品質が良好な6品種が入賞となりました。今回は、肥大性の良い品種が入賞する傾向がありましたが、気温が高く生育が旺盛な年には根部の割れなどが発生する可能性もあります。障害発生のリスクを分散するためには、各品種の特長を考慮し、複数の品種を組み合わせ合わせた栽培が必要となります。

表 入賞品種の審査得点、生育、及び規格別本数割合

| 順位  | 品種名      | 種苗会社       | 審査得点 |     |     | 葉重<br>(g/株) | 根長<br>(cm) | 根径<br>(cm) | 根重<br>(g/株) | 規格別本数割合(%) |    |     |
|-----|----------|------------|------|-----|-----|-------------|------------|------------|-------------|------------|----|-----|
|     |          |            | 立毛   | 収穫物 | 合計  |             |            |            |             | M          | S  | 小   |
| 1等特 | SC3-295  | (株) サカタのタネ | 76   | 262 | 338 | 66          | 31         | 6.4        | 680         | 4          | 21 | 75  |
| 2等  | No. 4856 | タキイ種苗(株)   | 85   | 246 | 331 | 88          | 31         | 6.4        | 705         | 13         | 4  | 83  |
| 2等  | SC3-643  | (株) サカタのタネ | 76   | 251 | 326 | 71          | 28         | 6.0        | 593         | 0          | 0  | 100 |
| 2等  | NR-522   | ナント種苗(株)   | 81   | 241 | 322 | 123         | 32         | 6.3        | 698         | 17         | 17 | 67  |
| 3等  | KAD-226  | カネコ種苗(株)   | 83   | 234 | 317 | 113         | 31         | 6.3        | 689         | 17         | 13 | 71  |
| 3等  | SC4-287  | (株) サカタのタネ | 74   | 243 | 316 | 58          | 28         | 6.5        | 647         | 0          | 8  | 92  |

注1) 各区12株×2反復を調査

2) 審査得点は、20名の審査員により立毛100点、収穫物300点の400点満点で評価

3) 規格は小：根重800g未満、S：800～900g、M：900～1,100g

果樹ニュース



## パッションフルーツの少加温施設 7~8 月収穫作型

農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室  
(執筆者：(現)果樹研究室 室長 押田 正義)

観光・直売向け品目として注目されているパッションフルーツを少加温施設で栽培し、7~8月を中心に収穫する作型を紹介します。高品質な果実を安定して生産することが可能です。

### 1 はじめに

パッションフルーツは甘酸っぱい食味と独特な香りが特長の南米原産の果樹で、千葉県は収穫量が13.0tと、全国4位の産地となっています。当研究室ではこれまでに、露地や無加温施設で7~10月を中心に収穫できる様々な作型を開発してきました。今回は、少加温施設において7~8月を収穫盛期とする作型を紹介します。



写真 パッションフルーツ

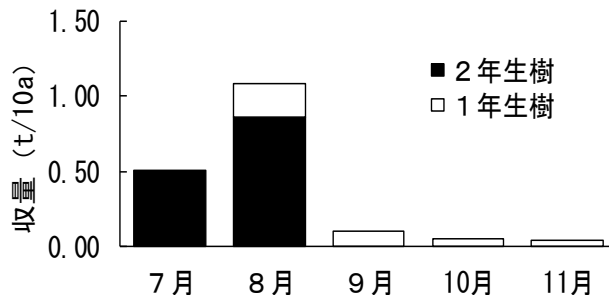


図2 少加温施設 7~8月収穫作型の収量

結果枝の育成を開始し、着花を確認した後に前年の結果枝を切除します。10a 当たり収量は1.79tで、このうちの90%近くに当たる1.60tが7~8月に収穫されます(図2)。平均果重は102g、平均糖度は19.0と高いものの、平均酸度が3.86%とやや高いため、販路によっては追熟して販売します。収穫終了後の2年生樹は、穂木の採取などが終わり次第伐採し、翌年は新たな苗に切替えますが、結果枝を再度更新して着果させ、冬実を収穫することも可能です。

### 2 1年生樹と2年生樹を組み合わせて

#### 高品質安定生産に

少加温とは冬期の凍害、寒害を避けて樹を越冬させるため、施設内の気温を5℃以上に維持する方法です。少加温施設で越冬させた2年生樹と、当年に定植する1年生樹を2分の1ずつ組み合わせて栽培するもので、収穫時期は7~11月、最盛期は8月になります(図1)。同時期に収穫できる露地や無加温施設の作型に比べ、安定して高品質な果実の生産が可能です。1年生樹は、前年9月頃に挿し木した苗を3月下旬に定植します。栽植距離は畝間1.6m、株間3m程度とし、逆L字仕立てで栽培します。2年生樹は前年の収穫後、最低気温5℃で加温し越冬させます。3月頃から新しい

### 3 おわりに

試験では「サマークイーン」を用いましたが、現地の慣行品種である「紫100g玉」でも同様の結果が期待できます。栽培技術の詳細は下記ホームページに掲載されている『アボカド・パッションフルーツ「栽培の手引き」リーフレット集』を御覧ください。  
<http://www.naro.affrc.go.jp/laboratory/nifts/contents/manual-pamphlet.html>

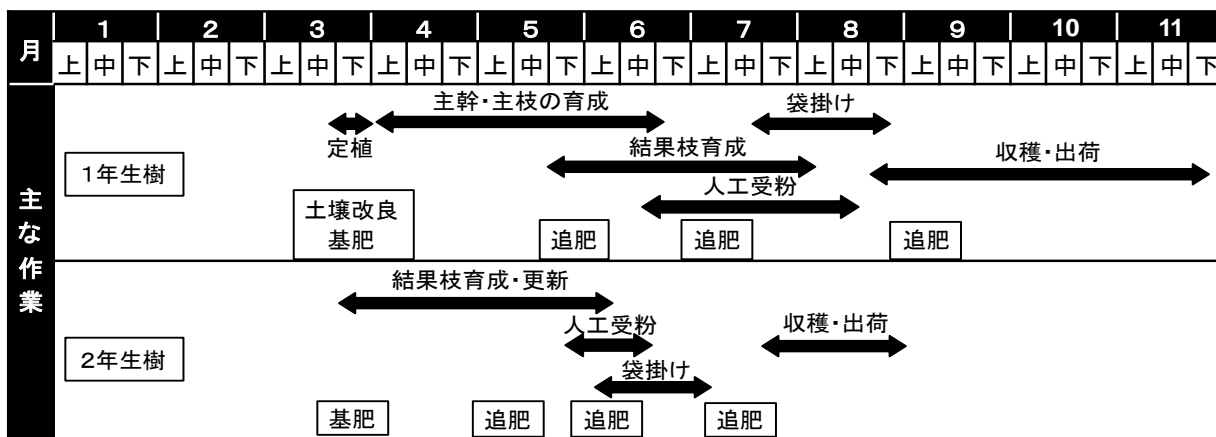


図1 少加温施設 7~8月収穫作型の作業暦

花植木ニュース



## 新規就農者研修施設「カラーの里」が完成

J Aきみつ 経済部農業振興課  
課長 鶴岡 慶一

J Aきみつは地域の特産花き「湿地性カラー」の栽培施設「カラーの里」を独自に建設しました。J Aではこの施設を新規就農希望者の自立に向けた支援施設と位置付けています。

### 1 産地の状況は

60年以上の歴史を有する当地の湿地性カラー（以下カラーと記述）は、先達の努力と地下水が豊富に湧く地の利とが相まって日本一と言われる産地として発展してきました。

現在、君津市小糸地区を中心におよそ60名の生産者が栽培に携わり、年間200万本を超える出荷があります。

出荷時期はおよそ7か月間で、11月に始まり徐々に増え、4月にピークを迎え5月には終了します。

### 2 今、産地が抱える問題は

何と言っても、高齢生産者のリタイヤが今後の懸念材料です。

切り花のマーケットは産地間の競争が熾烈で、一定の生産量に裏付けられた販売力がないと、産地そのものが忘れ去られてしまいます。

打開策は、個々の規模拡大と新規栽培者を増やすことの二つしかありません。

規模拡大には労力と管理技術が伴わないと、品質の低下や収益性の悪化を招くため簡単にはできません。

J Aでは栽培者を増やすことこそが最重要課題だと判断し、生産組織との協議を重ね、新規就農希望者の研修施設として「カラーの里」の建設に踏み切りました。

### 3 研修施設の概要

施設は平成30年度農山漁村振興交付金を活用し、J Aきみつ小糸経済センターの隣接地に設置しました。

メインのカラー植栽ハウスは3連棟のストロングハウスで約1,000㎡の面積規模です。



ハウス内の見学用ウッドデッキ

中央棟には長さ40mのウッドデッキを設け、視察者など、靴で入れるように配慮してあります。更に小型ハウス（約100㎡）を2棟併設し、カキツバタなどの水性花きを植栽する他、54㎡の研修棟も設置しました。

### 4 研修生の受入れ

本年5月から、1期生として2名の就農希望者を受け入れています。

生産組織から、常時現場に立ち会い指導していただける方、1名を選任してもらい、生産管理の他に今後の就農に向けた相談にも乗ってもらっています。

また、生産組織の役員の皆さんも、時折アドバイスに訪れています。

「カラーの里」は新たに株を植えたハウスですから本格的な出荷が始まるまでに3年を要します。それまで研修生は先輩農家にも出向き、収穫・選別・出荷作業を学んでいます。

J Aきみつでは今後10年間で10名以上の新規カラー栽培者を増やすことを目標にしています。



左から研修生 田中亮さん、常時指導者 奈良洋さん、研修生 河野進矢さん

### 5 終わりに

J Aきみつではこれまで17名の新規就農者を地域外から受け入れています。農地や住宅、資金、仲間づくりなど困難なハードルが山ほどありますが、地域の担い手農家や関係機関の協力を得ながら地域農業のために全力で取り組みます。

野菜ニュース



# 千葉県レタス協議会の取組について

公益社団法人千葉県園芸協会  
産地振興部 主幹 梅澤 利明

(公社)千葉県園芸協会では、全農千葉県本部、県、JA等を構成員として、関係者が戦略的に連携し、オール千葉体制による生産・販売力強化に向けた取組を進めています。平成30年度から新たに「千葉県レタス協議会」を開催し、取組の加速化を図っています。

## 1 取組の背景

千葉県のレタスの産出額は、平成29年産で34億円(全国比3.3%)と、全国9位となっています。県内の主な産地は、JAきみつ、JA安房、JA木更津市などで結球レタスが、JAちばみどりではサニーレタスが主に栽培されています。千葉県産レタスは、東京都中央卸売市場には年間を通じて出荷されています。特に12月から2月にかけて市場占有率が高く、静岡県や香川県、長崎県産などと競合しています。消費動向は、他の野菜に比べ増加傾向となっており、加工業務用の需要も拡大しています。

## 2 これまでの取組

県内産地の連携により、生産・販売力の強化を図るため、平成28年度から取組を開始しました。

### ①選果基準表の作成(平成29年)

JA安房、JAきみつ、JA木更津市では、出荷規格がおおむね揃っていることから、選果基準表を作成し、関係者で共有。

### ②共通デザイン出荷箱の作成(平成30年)

選果基準表の作成を契機に、上記3JAで「チーバくん」を使った共通デザインの出荷箱を作成。

### ③合同販売促進活動の実施(平成30年)

イオンモール幕張新都心において、レタスを中心とした3JA合同販促を実施。

## 3 千葉県レタス協議会の開催

平成30年度、安房・君津地域の3JAを対象に、現状や課題の把握のため、産地ヒアリングを行いました。また、安房・君津地区園芸連絡協議会の広域流通による物流の合理化や合同販売促進の取組もあり、レタスの産地連携に向けた機運が高まったことから、平成31年1月に「千葉県レタス協議会」を開催し、各産地の関係機関で意見交換を行い、「省力化等による生産拡大と物流合理化によるロットの拡大」を目標にすることや、系統取引量の増加等について合意が図られました。さらに、県外の優良事例を学ぶため、省力化に取り組むJA香川県の視察を行いました。



協議会で視察した大規模生産者ほ場(JAきみつ)

**レタス選果基準表** 千葉県園芸協会(公社)千葉県園芸協会 JA全農ちば

|             |                            |       |     |   |    |
|-------------|----------------------------|-------|-----|---|----|
| 1. 結球度合     |                            |       |     |   |    |
| 未熟          | 収穫適期 (結球度合は選果を併して選別性のあるもの) |       |     | やや遅れ  | 過熟 |
|             | 初                          | 中     | 後   |   |    |
| 2. 形状       |                            |       |     |   |    |
|             | 腰高                         | タコ足   | 芯ずれ | 3. 選別基準   |    |
| 正産品         |                            |       |     | 正産品: 品質固有の形状・色沢を有し、適度に結球しており、裂球していないもの<br>病斑・その他損傷のないもの<br>腐敗・変質・抽苔していないもの<br>根部の切除が適切なもの<br>外葉が除去されているもの<br>芯どりのもの |    |
| 丸産品         |                            |       |     | 丸産品: 正産品に次ぐもので商品価値のあるもの(老化したものは除く)  |    |
| 4. 出荷できないもの |                            |       |     |   |    |
| 病害          | 割れ                         | 葉柄の変色 | 深切り |   |    |
|             |                            |       |     |   |    |

選果基準表(抜粋)

## 4 今後の取組

今後はさらに、各産地の課題の洗い出し、解決方法を検討するとともに、関係者の役割を明確にし、産地間連携の取組を進め、千葉県のレタス生産が拡大するよう、活動を進めてまいります。

## 千葉県立農業大学校 令和2年度推薦入学生募集

千葉県立農業大学校は、令和2年度推薦入学生を下記のとおり募集します。千葉県農業の担い手、指導者を目指す多くの学生の皆さんのチャレンジをお持ちしています！

募集人員 **農学科** 約40名 **研究科** 約10名

受験資格 **農学科** 高等学校を卒業又は令和2年3月卒業見込みの者で、学業成績が特に優秀であり、かつ学校長が推薦する者。

**研究科** 短期大学卒業と同等と認定されている農業大学校の卒業生又は、短期大学の農業に関する正規の課程を修めて卒業した者。(令和2年3月卒業見込の者を含む。)

試験期日 令和元年10月29日(火)

試験場所 千葉県立農業大学校

試験内容 **農学科** 小論文及び面接

**研究科** 小論文及び面接

願書受付 令和元年9月27日(金)～10月11日(金)

合格発表 令和元年11月7日(木)

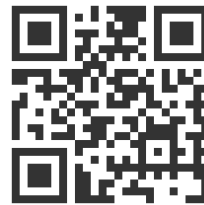
問合せ先 千葉県立農業大学校庶務教務課

〒283-0001 東金市家之子1059

電話：0475-52-5121 FAX：0475-54-0630

<http://www.pref.chiba.lg.jp/noudai/index.html>

※本校での勉強の様子や学生生活に関する情報を御覧いただけます。



twitter



facebook

## 千葉県立農業大学校「樹勢診断と回復技術講座」募集

植木生産者や造園業者、本講座に興味のある方を対象に、樹木の病虫害、気象障害や土壌障害などの基礎知識を習得し、庭木についての樹勢診断と回復技術を屋外ほ場で実証する。

日 時 令和元年10月3日(木)

受 付 9時30分から(農業大学校本館玄関)

講義・実習 午前10時から午後4時まで

場 所 千葉県立農業大学校

講 師 樹木医 松原 功 先生

定 員 30名(先着順)

受 講 料 無料

申込方法 講座名、氏名、郵便番号、住所、電話番号、所属を記入の上、9月2日(月)～9月26日(木)(当日消印有効)の期間に郵送、FAX、又は持参。

申 込 先 千葉県立農業大学校農業研修科 (担当 真行寺)

〒283-0001 東金市家之子1059

電話：0475-52-5140 FAX：0475-54-0630